

研究課題名	関節鏡手術後の軟骨半月板変化に対する MRI を用いた定量的評価
研究の意義・目的	膝関節内病変に対する手術として靭帯再建術、半月板縫合、切除術、脛骨高位骨切り術などがある。いずれの手術も疼痛軽減のために行われるが、長期経過観察によって軟骨変性、半月板変性が進行する場合がある。さらに、変形性関節症発症を評価する際に、レントゲン検査は所見として現れるには数十年を要すると言われている。そのために、術後の軟骨損傷、半月板変性の程度をより早期に低侵襲に診断することが急務であると考えられる。近年、低侵襲で軟骨変性変化をとらえることができるツールが開発されてきた。MRIは非侵襲的な画像診断として以前より広く用いられているが、軟骨に対しては物理的に重度の損傷をきたしている場合にしか判別することができなかった。T2マッピング法は軟骨内のコラーゲン配列を数値化することができる方法であり、T1ρマッピング法は軟骨内のGAG含有量を数値化する方法で、共に軟骨内部の変化を数値化することができる。これらの技法を使用して、より低侵襲に軟骨、半月板変性を評価することが今回の目的である。
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ～ 2028年11月
研究協力をお願いしたい方 (対象者)	2014年1月1日～2025年11月30日に大阪公立大学医学部附属病院の整形外科で、膝疾患の診断、治療のため受診された入院、通院患者様が対象です。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせて いただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報：診断名、年齢、性別、BMI、術中所見、臨床成績、X線検査、MRI検査

<b>試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称</b>	この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科整形外科学教室のみで行います。 【研究責任者】橋本祐介
<b>個人情報の取り扱い</b>	この研究にご参加いただいた場合、あなたから提供された診療情報などのこの研究に関するデータは、すぐには個人を特定できない形式に記号化した番号により管理されます。 この研究から得られた結果が、学会や医学雑誌などで公表されることはあります。このような場合にも、あなたのお名前など個人情報に関することは含まない形で公表されます。
<b>本研究の 利益相反</b>	本研究の利害関係については、各研究機関で定められた利益相反マネジメントの規定等に従って必要に応じて各研究機関の利益相反マネジメント委員会へ報告を行うことにより、利益相反を管理し研究を遂行します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
<b>研究に協力を したくない場合</b>	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。
<b>連絡先</b>	大阪公立大学医学部附属病院 整形外科 担当者氏名：橋本 祐介 電話番号：(06) 6645-3851